

新たなステップへ

市では、平成24年度から、この独自の観音文化を全国に届けようと「観音文化振興事業」を展開し、仏像の所有者や有識者などで「観音文化ネットワーク会議」を組織。首都圏でのプロモーション事業を推進してきました。

平成26年・28年に東京藝術大学大学美術館で開催した「観音の里の祈りとくらし展」には約5万人、平成28年3月（令和2年10月に開設した「びわ湖長浜KANON HOUSE」には約7万人の来場者があり、長浜の観音文化の魅力発信に多大な成果を上げました。

一連の取組みの中で課題として見えてきたのが、来訪者が実際に長浜市を訪れた時に各仏堂での受入れ体制が異なり、必ずしもスムーズに拝観できないという実情です。一方、村々では、少子高齢化等により仏像や仏堂を維持し、公開していくための人材や資金が不足し、文化の伝承が困難になる恐れが生じてきました。

それを踏まえ、これまでのシティプロモーションを主題としてきた取組みを、**拝観者の受入れ体制の確立への取**

組みにシフト。ネットワーク会議を改組し、「観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議」を令和2年4月に設立しました。伝承会議では主に次の4つを協議します。

- ① 仏像の修理と資金調達のあり方
- ② 仏像の防犯・防災・保存環境の維持等に関する対応
- ③ 拝観受付（連絡方法・拝観時間等）に関する対応
- ④ 観音文化の発信に関する対応

また、観音像や仏堂の現状を把握するため、「観音の里コーディネーター」に3年間で市内の100軒もの観音堂の調査を委託しています。観音像だけでなく堂内の配置や、そして個々の観音堂を取り巻く課題などを調査し、観音文化の伝承の方策を探るとともに、**観音像を守る地域間のネットワーク化**を図ります。

また、来訪者からの問合せや村々に来訪者の仲介役を担う「観音の里コンシェルジュ」を雇用し、**来訪者の受入れの組織化や一元化**をめざしています。

観音の里 コーディネーター

対馬 佳菜子 さん



状況調査は、維持管理されている方々と一緒に管理について確認する機会でもあります。ホトク様をお守りしていく中での悩みやこうなったら良いなどのご意見に耳を傾け、会議にご報告しています。また調査でお聞きした対策や文化継承の取組みについて許可をいただいた情報は、別の地域で維持管理をされている方にご紹介しています。随時ご相談をお受けしておりますので、お気軽に事務局へご連絡ください。

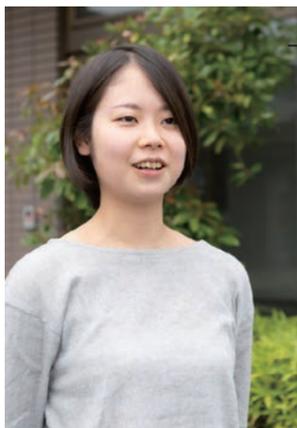


観音の里 コンシェルジュ

米田 頌子 さん



長浜市は地元の方がお守りされているお堂が多いため、拝観には事前予約が必要なお堂がほとんどです。しかし、予約が必要ないのが現状です。まずは予約のことも含め、観音の里を訪れる際にお願したいことなどをその背景とともに情報発信するなど、拝観の時間が来訪者にとっても、地元の方にとっても良い時間になるよう、橋渡しをできればと思います。



都市部から長浜への入り口

「東京長浜観音堂」オープン



東京長浜観音堂

東京都中央区日本橋 2-3-21
八重洲セントラルビル4階



東京長浜観音堂
ホームページ

会 期 7月10日(土)～令和4年2月27日(日)
開館時間 10時～18時 休 館 日 月・火曜日
入 館 料 無料

7月10日(土)、「東京長浜観音堂」をオープンしました。

モントーンの静謐な空間に、長浜産の檜材で厨子に見立ててつくられた「観音堂」を配置。約2か月ごとに長浜の観音像を出張展示します。

観音さまの魅力に間近に触れることで心の安寧と癒しをもたらされ、訪れる人の心の拠り所となります。

観音さまと静かに向き合う体験が、「観音の里長浜」への関心を高め、観音文化の保存伝承のための支援者・協力者を創出します。

「長浜観音倶楽部」創設

観音文化保存伝承への支援・協力の輪を広げるため、「長浜観音倶楽部」を創設し、会員を募集中です。

観音像をお守りする中での困りごとを解消するために、様々な形で貢献いただける皆さんの入会をお待ちしています。

会員特典

- ① 会員証・オリジナルグッズ
 - ② 市内観音堂の解説付き特別拝観への優先的招待
 - ③ 会員限定季刊誌のお届け など
- ※ なたでも入会できます。手続きなど詳しくは、東京長浜観音堂ホームページをご覧ください。



観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議
おおつか けいちろう 座長

東京藝術大学での観音展など、首都圏で長浜の観音文化を発信した際には、村々の皆さんも驚くほどの反響がありました。会場を訪れた人々が観音さんに一心に手を合わせていらっしやる姿を目の当たりにし、「一人との距離が近く親しみやすい湖北の観音さんには、自ずと向き合わせてくれる力があるのではないか」と感じました。

観音さんをお守りすることは時代とともに難しくなり、県内でも、市や美術館に寄贈するという集落もあります。湖北の観音さんや寺が守られているのは、「わが村はわが手で守る」という気質や気概を持つ村人たちがあってこそです。

伝承会議では、古から受け継いできた観音さんと、観音さんへの親しみと敬意を持ってわが手でお守りするという文化を、後世に伝えていくことを理念としています。そのために必要なお堂の修繕や防犯といった環境整備も含め、観音の里の未来を皆さんとともに描いてまいります。

1 回目の出陳観音像
長浜市指定文化財 **聖観音立像**
平安時代 像高101.3cm(南郷町)
ヒノキ材による一本割彫造で、割首、両肩から先には別材をつないでいる。伏し目がちで丸みのある穏やかな面相、浅く繊細な衣文、おとなしいなで肩、細身でバランスの良い体形など、平安時代末期の様式をよく示している。

